

# 第1回港区3R推進行動会議議事録（要旨）

平成20年7月23日

## まとめ

---

- ・ 新清掃リサイクル課長、高木俊昭課長。
- ・ 平成20年度は、「周知・PRプロジェクト」「重点プロジェクト」「参加型プロジェクト」を、ご近所3R（区民向け）とひるどき3R（事業者向け）それぞれに展開し、さらなる3R推進を図る。
- ・ 8月に「プラスチックマーク実態調査」を実施。
- ・ 11月に「ひるどき3Rキャンペーン」を実施。
- ・ 3月に「3Rフォーラム」を開催。

## 1 区挨拶等

---

- ・ 4月から清掃リサイクル課長に就任しました、高木です。よろしくお願いいたします。
- ・ 22年度から「負担の公平」ということで、ごみ処理を他区内の施設で行った場合は、その処理量に応じた費用の支払いが必要となる。港区の場合は、約2,300万円必要になる。また、清掃一部事務組合分担金についても人口割からごみ量に応じた算定に変わるため、港区の分担金は、これまでの約4倍になる見込み。コスト面からも、ますますごみ減量が重要になる。

## 2 資料説明

---

### 区からの報告

- ・ 「みなとクリーンプラン21概要版」完成。平成23年度までに30%のごみ減量が目標。改訂後は、3R推進行動会議の支援がより明確化された。
- ・ 「ごみの分別が変わります」は、出前説明会等で5万部配布済み。10月からのプラスチック資源回収本格実施に向けて、もう少し詳しい冊子を作り、全戸配布する予定。
- ・ 「エコイベントマニュアル」は今年のお祭りに活かしてもらい、より使いやすいものに更新していきたい。
- ・ エコプラザが6月にオープン。登録制の無料会議室の他、700㎡のスペース等があり、イベントやワークショップに使うことができる。指定管理者制度で、毎日アースディ（株）が管理運営を行っている。

### 事務局からの説明

- ・ 今年度3R推進行動会議の進め方（案）として、3Rのさらなる推進を図る。区民、事業者それぞれに向け、「周知・PRプロジェクト」「重点プロジェクト」「参加型プロジェクト」の3つを展開する。
- ・ 10月の資源プラ回収実施に先立ち、8月にプラスチックマークの実態調査を実施する。
- ・ 「エコイベントマニュアル」を活用し、エコイベントの実践を支援する。
- ・ 区内事業者向けに、3Rの重要性や取組事例を紹介するセミナーを実施する。
- ・ 「ひるどき3R企画会議」を設置し、事業者の取組を推進する計画を検討する。
- ・ 昨年同様、ランチタイムに限定した「ひるどき3Rキャンペーン」を行う。

### 3 全体討議

#### 意見交換

- ・ ごみの分別資料について、食品トレイや牛乳パック、乾電池等の店頭回収、集団回収への協力も明記した方がよい。
- ・ パンフレットや資料がいくつもあって、分かりにくい。字が小さく、写真がきれいなものばかり。区民としては、ごみ問題も環境問題もリンクしたパンフレットの方が親しみやすい。機会があれば、資料についても区民から意見をもらうといい。
- ・ 港南地区の超高層マンション在住だが、ひるどき3R（事業者向け）対象なのか、ご近所3R（区民向け）対象なのか、分からない。戸数も多く、居住用途以外の利用も多く、管理組合が管理をしている。
- ・ 200戸ほどのマンションでも、ごみはいつでも出せるし、管理人が分別をやってくれるので、自治会を作って集団回収したいが、必要ないのが現実。
- ・ 区全体だと、分別がしっかり行われているマンションは少ない。ディスプレイがある物件は110件程度、貯留機があるところでも中は分別ができておらず、酷い状態。
- ・ プラマーク調査をマンション住人にも行ってもらうことで、意識が高まるのではないか。
- ・ プラマークに限らず、分別にわかりにくいものも調査したらどうか。
- ・ プラスチックであることをマークで表記するより、ドイツの事例のように分別方法ごとに番号を表記した方が分かりやすい。
- ・ 以前イベントでリユース食器の使用を検討したが、保健所からNGが出た。エコイベントマニュアルは、保健所に安全な方法もあるということを知ってもらうためにも使えるかもしれない。
- ・ 分別方法の変更は、区内在住者だけでなく、90万人の在勤者にも周知徹底することが必要。
- ・ 大規模事業者はCSR等にも取り組んでおり問題ない。小規模事業者向けのセミナーにしてはどうか。
- ・ 赤坂地域では「赤坂青山会議」があり、環境美化や防災等に取り組んでいる企業組織がある。事業者というより地域ごとに対策を行ってはどうか。
- ・ 麻布では町会に、手ぬぐいを配布して3R推進を行っている。
- ・ 推進会議と住民の間には、明らかに温度差がある。掲示板や回覧板で周知しているが、現実には反応が鈍く、難しい。
- ・ 法律もあり、商店ではごみ減量に苦労している。地域コミュニティとして情報発信の場にもなりえるのではないか。
- ・ 量り売りを導入してごみ減量をしたいが、都心では店舗が狭く、システムを作りにくい。
- ・ よく質問されるが、食品に使われている紙ラベル付きラップは、ラベルを剥がさずそのままプラ回収に回している。
- ・ 弁当箱持参したら10円引き、50円引き等の特典をつけてほしい。
- ・ 商店はコストを抑えるために、プラの使い捨て容器をまとめ買いしているのでもらう必要を感じていない。
- ・ 区が商店会等の取り組みをもっと褒めれば、エコイベントマニュアルの利用を広げていくことができると思う。
- ・ マニュアルを活用することで、いくらぐらいのごみ処理費が浮くか等、具体的な数字を示すことも重要。
- ・ 使い捨て容器を使用して、地域の祭りを23年間食中毒なしで行ってきた。もしものことを考えると、リユース食器を使うことに抵抗がある。

- ・ 可能であれば、エコプラザで開催している「みなと環境にやさしい事業者会議」を傍聴したい。

## 4 その他

---

### 次回会議の確認

- ・ 次回会議の候補日は、11月 18日（火）、12日（水）、11日（火）。いずれかの午前中。
- ・ 10月6日（月）・7日（火）容器包装3R推進フォーラムを開催。港区共催。案内チラシがきたら配布するので、是非ご参加ください。